

不登校・傷ついた人たちから。



が分かりました。病院の精神科へ行くと、先生が多く通っています。そういう話を聞きます。とにかく学校の先生は悩んでいますね。ノイローゼになる人もいますから。今の自分に思話まつてはいるといふが、先生同士が悩みを話し合つことはあるのでしょうか。教務室の中はどうなんでしょうか。

Aさん（女性）
不登校を経験した人や学校現場の教師に、不登校について話をうかがいました。三人の声から、不登校は一体私たちに何を問いかけていけるのでしょうか。

●不登校になったのはいつから
小学三年生のときからです。小学校入学のころからクラスの女子に仲間外れにされ、いじめられて、しだいに学校も午前中だけあるいは午後だけといった具合になりました。後から知つたのですが、仲間外れは保育園の年長組のときから始まって

●親や学校の反応は
母親はもう無理してでも連れで行くっていう感じで、「父親は無理して行かなくてもいい」と言つてくれましたけど。

学校は「うど、担任は母親が娘のいじめのことで相談に行つても真剣に対応しないし、それには私が不登校になり、授業途中から教室に入つても無視されるし、テストでも正解なのにわざと「×」が付けられ間違になつていてるんです。だから、家へ帰ると母親に「お母さん、これさ正解だよね。どうして間違いなんだろ」と聞きました。学校へ行くこと不登校の私が悪いことしてるみたいに見られて、先生に反抗もできず不信感が募りました。

学校は不登校の私を病氣扱いにしてたみたいです。

●不登校の朝になると腹痛が始まり、もう学校へ行きたくなくなります。もともと勉強は好き

休息して、自分を暗く考えず、豊かな人生を

いたんです。
●不登校になったのはいつから
小学三年生のときからです。小学校入学のころからクラスの女子に仲間外れにされ、いじめられて、しだいに学校も午前中だけあるいは午後だけといった具合になりました。後から知つたのですが、仲間外れは保育園の年長組のときから始まって

●不登校はいつからなくなつたの
中学に入れるところからです。小学校のクラスの女の子とはバラバラになり、新しい友達ができるようになりました。

●今、不登校で悩んでいる子どもたちに電話や手紙でアドバイスをしているそつで、高校入学のころから不登校の子へアドバイスというか、相談相手になつてゐるんです。安塚学園（フリースクール）へ行つたとき、十二名の中学生が通学してたんですが、彼らにとって不登校の子が少しづつ心を開き、わずかではあるが勉強意欲を見せたとき、子どもが一つのことを理解し、喜ぶ顔を見せたとき、何かうれしいものを感じます。彼らは歩みは遅いけど、確実に前へ進んでいます。傷ついた子どもが元気になるには時間がかかります。そのことを分からぬと不登校は前へ進みません。

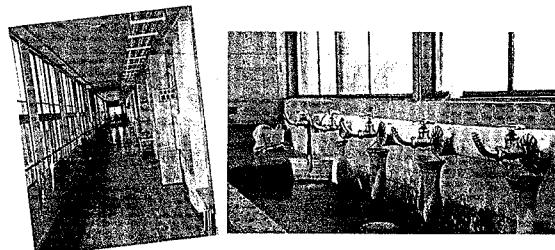
取材先で拾った声①

□元教師

教員時代には理解できなかつたことが、不登校の子どもたちを見るようになって分かってきました。いろんな子どもがいて当たり前なんですね。「ちょっと勉強しようかな」「これ、教えてほしい」と言って不登校の子が少しづつ心を開き、わずかではあるが勉強意欲を見せたとき、子どもが一つのことを理解し、喜ぶ顔を見せたとき、何かうれしいものを感じます。彼らは歩みは遅いけど、確実に前へ進んでいます。傷ついた子どもが元気になるには時間がかかります。そのことを分からぬと不登校は前へ進みません。

●最後に、不登校って何でしよう
親はまさかうちの子がと思ってるけど、不登校は特別でも何でもない、誰にでも起るものです。自分が不登校を経験したから、不登校で苦しんでいる人にアドバイスができるし、不登校ということで傷ついたことがいっぱいあつたけど、それもいい経験でした。不登校の子の気持ちは不登校になつた子にしか分かれません。不登校は周りが変わらない限りなくなりません。

不登校の皆さん、勇気をもつて頑張ろう。そして自分で答えを出してください。



憲法で見る義務教育の解釈

憲法第26条では、義務教育を次のように唱っています。

『すべての国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する』

『すべての国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負ふ』

○解釈 子どもは学校へ通う義務ではなく、学校教育へ参加する権利があり、親（保護者）は子どもを就学させる義務（子どもが学校へ行けるようにする）がある。つまり、子どもは保護者が就学させる義務を果たせば、学校へ行かねばならない義務が生まれるのでなく、学校へ行く権利を取得すると解釈できます。義務教育は子どもでなく、大人に課せられたものといえます。

Bさん うちの子は中学二年で、文化祭だけ行きました。前日の準備をあつたのですが、やつぱり当日だけとなりました。ある演劇会で、不登校の子が「先生も学校を楽しむことが必要です。子どもにとつて、学校だけが学ぶ場ではないと思う。子どもがいじめを受け、生きる言つてたけど、何か精神的にすごく大人というか、もう先生を越えてる感じがして。先生も学校を楽しむことが必要です。Fさん 子どもにとつて、学校だけが学ぶ場ではないと思う。夫を大事にしないといけないですね。今の中学生はいろいろと、もう大きくなり、これからは子どもより夫婦の問題が出てきます。老後のことを考へて夫を大事にしないといけないので、価値観が変わります。二十一世紀は学力社会ではない時代になつてほしい。

Kさん うちの子は十七歳と二十歳が不登校になつた親は、子どもへの価値観も変わります。子どもが遊びでいる間に、夫が大事にしないといけないかなと思います。

●最後に、不登校って何でしよう
親たちは別の部屋で話したり、情報交換したりします。そして、子どもたちは遊びでいる間に、夫が大學生に話を聞くきました。

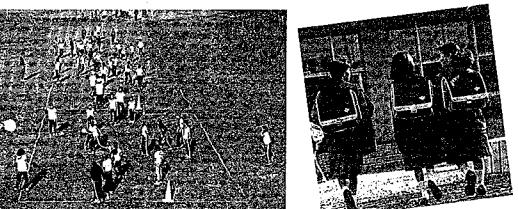
三日前からブリースクールに足を運び、不登校の子どもたちの相手になつていています。最初は、子どもたちどうぞ語る大学生に話を聞くました。

登校の子どもたちの相手になつていています。最初は、子どもたちどうぞ語る大学生に話を聞くました。

「勉強はいろいろでなく、登校の子どもたちは違う」と、(待合室)に参加したことがあります。そこで、参加した母親が「勉強はいろいろでなく、登校の子どもたちは違う」と不登校の子どもたちは違うと言つてました。

以前、不登校の全国の集いに参加したことがあります。が、そこで、参加した母親が「勉強はいろいろでなく、登校の子どもたちは違う」と不登校の子どもたちは違うと言つてました。

登校の子どもたちは、たぶん、正直言うて、教育実習で接した子どもたちは、まだ接することができないときのやるもの」と、(待合室)に参加したが、その後、



ここは廻しの場 不登校の子と向き合う大学生

りではないかと思いません。フリー・スクールに参加して、子どもたちから教わることもあり、逆にこちらが元気づけられることがあります。一年上の子が小さい子の面倒を見たり、自分でだけやなつきのことを考へる週一回、わざと三時同スクールは大学生たちの協力で週一回開いていますが、会場へ行くと不登校の子と一緒にしてたんだめぱり、子どもたちから教わることもあり、逆にこちらが元気

は、子どもたちの姿が書いてあります。子どもたちは他のたのめぱり、子どもたちが遊びでいる間に、夫が大事にしないといけないかなと思います。

●最後に、不登校って何でしよう
親たちは別の部屋で話したり、情報交換したりします。そして、子どもたちは遊びでいる間に、夫が大學生に話を聞くました。

三日前からブリースクールに足を運び、不登校の子どもたちの相手になつていています。最初は、子どもたちどうぞ語る大学生に話を聞くました。

登校の子どもたちは、たぶん、正直言うて、教育実習で接した子どもたちは、まだ接することができないよう見えています。が、自分の問題を深く考へていいないように見えます。年上の子が小さい子の面倒を見たり、自分でだけやなつきのことを考へる週一回、わざと三時同スクールは大学生たちの協力で週一回開いていますが、会場へ行くと不登校の子と一緒にしてたんだめぱり、子どもたちから教わることもあり、逆にこちらが元気づけられることがあります。一年上の子が小さい子の面